

ウェリレグ®治療ハンドブック

ウェリレグ®による治療を受けられる患者さんへ



監修：福岡中央病院 泌尿器科 部長
国際医療福祉大学 医学部 教授 江藤 正俊 先生



本冊子に記載している副作用はウェリレグ®の副作用のすべてではありません。
この他にも気になる症状があらわれた場合には、担当の医師や看護師、
薬剤師に相談してください。

はじめに

ウェリレグ®は、「HIF-2 α 阻害剤」というお薬です。ウェリレグ®のより良い効果を得るためには、治療をしっかりと継続していくことが大切です。そのためには、起こる可能性のある副作用を正しく理解しておくことが肝心です。

本冊子では、ウェリレグ®の副作用のうち、特に注意が必要な「貧血」と「低酸素症」に焦点を当てて解説しています。本冊子で紹介する症状や体調の変化があらわれた場合は、すみやかに担当の医師や看護師、薬剤師に相談してください。



もくじ

ウェリレグ®の特に注意すべき副作用

- 貧血 4
- 低酸素症 6

その他の注意 7

ウェリレグ®の特に注意すべき副作用

貧血

ウェリレグ®を服用することで貧血があらわれることがあります。

本剤投与開始前および投与期間中は、定期的に血液検査（ヘモグロビン値測定など）が行われます。
以下の症状があらわれた場合には、すみやかに担当の医師や看護師、薬剤師に連絡してください。

- 体がだるい
- 息切れ
- めまい
- など

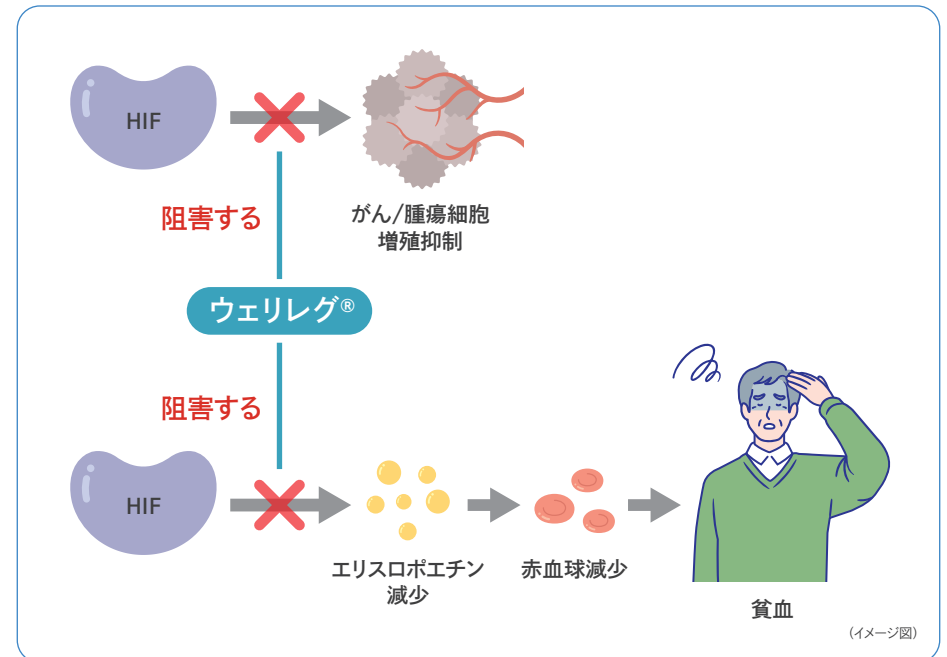


〈解説〉

貧血の原因はさまざまですが、ウェリレグ®による貧血はエリスロポエチンが不足することによって起こります。

ウェリレグ®はHIF-2 α を阻害することでがん/腫瘍細胞の増殖を抑えるのと同時に、エリスロポエチンを減少させる作用もあります。

エリスロポエチンは赤血球を作るのに必要なホルモンです。そのため、エリスロポエチンが不足すると赤血球が減って貧血になります。



ウェリレグ®の特に注意すべき副作用

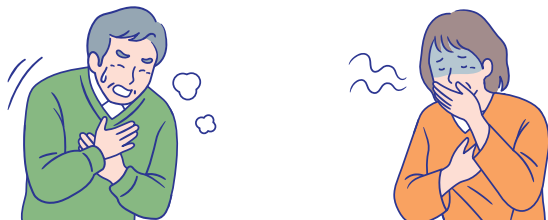
低酸素症

ウェリレグ®を服用することで体内の酸素が不足した状態になることがあります。

本剤投与開始前および投与期間中は、定期的に動脈血酸素飽和度(SpO₂)が測定されます。
以下の症状があらわれた場合には、すみやかに担当の医師や看護師、薬剤師に連絡してください。

- 息切れ
- 息苦しい
- 胸の痛み
- 動悸
- 吐き気・嘔吐
- など

- 呼吸器疾患のある方やこれまでに呼吸器疾患にかかったことのある方
低酸素症の副作用が出現しやすかったり、悪くなりやすくなるおそれがありますので、担当の医師や看護師、薬剤師にお伝えください。



〈解説〉

体内の酸素が十分にあるかを知るための目安として、パルスオキシメータで測定する酸素飽和度(SpO₂)があります。

SpO₂とは、血液(動脈)の中の赤血球に含まれるヘモグロビンの何%に酸素が結合しているかを皮膚を通して調べた値です。

その他の注意

ウェリレグ®を服用した患者さんで脳出血、消化管出血などの「出血」や「骨折」が起こったことが報告されています。ウェリレグ®の作用によるものかは今のところ不明ですが、気になる症状があらわれた場合には、担当の医師や看護師、薬剤師に相談してください。

医療機関名

電話番号

担当医師名

緊急連絡先

● 治療期間

年 月 日 ~ 年 月 日